

1991年 3月25日

<毎月25日発行>

第137号 4頁 200円

定期購読料（送料込み）

半年 1500円、1年 3000円

赤旗

共産主義者同盟中央機関紙

(1980年2月28日第3種郵便物認可)

二面……三里塚

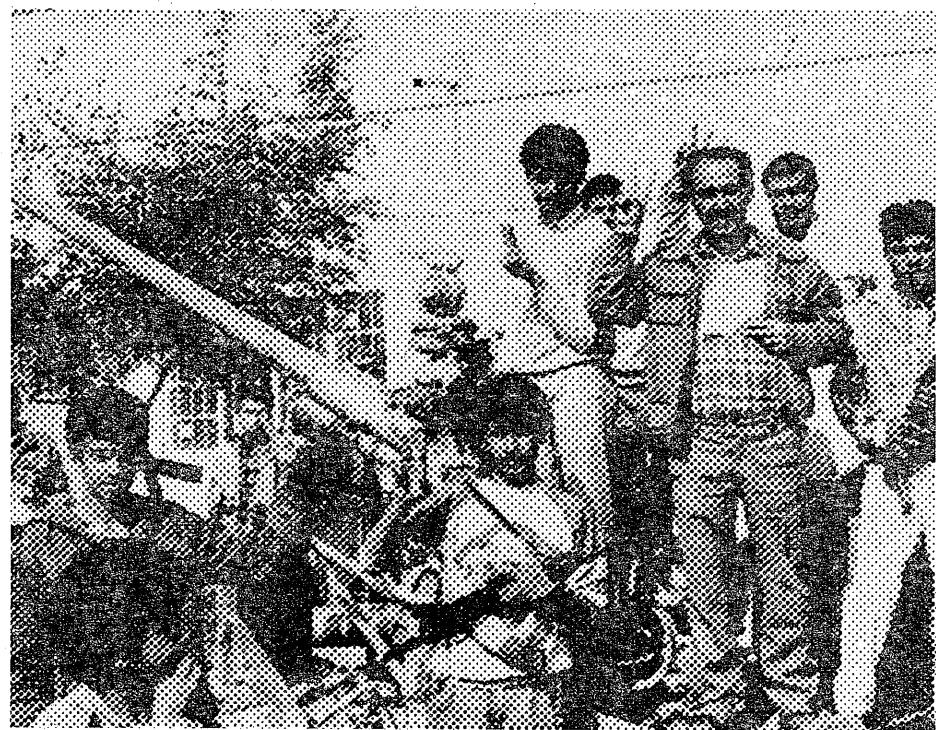
三面……ソシテの危機・パレスチナ

四面……ネオ・マルクス主義批判

東京都下谷郵便局私書箱180号
(関西) 大阪市港郵便局私書箱40号
郵便振替 東京 9-352128

海外派兵への突破口

PKO参加を粉碎せよ



政府軍から大砲を奪取し武装する民衆（三月初旬、イラクのバトラ）

—

併合を

開始され

・併合を

三里塚

反侵略の旗の下、協議会と対決 全国から五七十名



「協議会」による公開シンポ に反対する共同声明

〔I〕我々は昨年十一月

の地域振興協議会発足以降

「協議会」に対する批判的立場

試練の中で勝利の全国布陣を建設しよ。

我が同盟は、この共同声明の意義を高く評価す

反対同盟を「話し合い・土地区

〔II〕「協議会」は二月

〔I〕という発言に端的に現れ

政府・公団は、この間「話し

革命的労働者党建設をめざす解放派全国協議会

認定の失効を認めず「強制収用の

意を放棄していない。このよ

うな中では、「協議会」が言う

反対等・平等の話し合いなどは幻

想しかない。しかも死者の遺

志を勝手にねじまげ冒瀆する行

程は、断じて許すことができな

「協議会」は「その発足願意

書において率直に話合

第一回の完成を何とでも実

空港問題の解決を

が欠けていた」「意見を出し合

う場を設け、空港問題の解決を

「協議会」の「空港問題の

解消」とは、当然にも「顛倒止

めでいる。つまり反対同盟

・空港反対ではなく、空港審議

容認」とは、空港反対派の大義

念」すれば「空港反対派の大義

の立場に他ならない。

また、「協議会」は鎮魂祭を行

い、闘争・対立関係を構成し

あたかも政府・公団と反対同盟

が対等の立場で話し合えるかの

ように振舞っている。だが政

府・公団は「期工事の強行」と

が、「協議会」の場を利用して

条件交渉」に引寄せらる

たが、条件交渉の場は、反対

主催者挨拶に石井式さんが

登壇した。

「第三回の公開質問状に

対する回答の中で政府は公

開シンポの場で話しあう公

検問監視も改めない中では

ピストルを突きつけ協力

試練の中で勝利の全国布陣を建設しよ。

海湾戦争への参戦を果た

し本格的な派兵策動を強化

する日帝国家権力との対決

を迎えるなか、三・一七三

には冷や冷やした危ない橋

主催者挨拶に石井式さんが

登壇した。

「第三回の公開質問状に

対する回答の中で政府は公

開シンポの場で話しあう公

検問監視も改めない中では

ピストルを突きつけ協力

試練の中で勝利の全国布陣を建設しよ。

海湾戦争への参戦を果た

し本格的な派兵策動を強化

する日帝国家権力との対決

を迎えるなか、三・一七三

には冷や冷やした危ない橋

主催者挨拶に石井式さんが

登壇した。

「第三回の公開質問状に

対する回答の中で政府は公

開シンポの場で話しあう公

検問監視も改めない中では

ピストルを突きつけ協力

試練の中で勝利の全国布陣を建設しよ。

海湾戦争への参戦を果た

し本格的な派兵策動を強化

する日帝国家権力との対決

を迎えるなか、三・一七三

には冷や冷やした危ない橋

主催者挨拶に石井式さんが

登壇した。

「第三回の公開質問状に

対する回答の中で政府は公

開シンポの場で話しあう公

検問監視も改めない中では

ピストルを突きつけ協力

試練の中で勝利の全国布陣を建設しよ。

海湾戦争への参戦を果た

し本格的な派兵策動を強化

する日帝国家権力との対決

を迎えるなか、三・一七三

には冷や冷やした危ない橋

主催者挨拶に石井式さんが

登壇した。

海湾戦争への参戦を果た

し本格的な派兵策動を強化

する日帝国家権力との対決

を迎えるなか、三・一七三

には冷や冷やした危ない橋

ネオ・マルクス主義 国家論批判

(8)

山村信

二

それは、スターリンに組み入り、闘争……一つ（の組合せ）だけが：打ちかち・経済・政治的目標の單一性を生じ、知的・道徳的な統一性を生じ、国家をめぐる「力関係」論

になり：闘争……一つ（の組合せ）だけが：打ちかち・経済・政治的目標の單一性を生じ、国家をめぐる「力関係」論

となり：闘争……一つ（の組合せ）だけが：打ちかち・経済・政治的目標の單一性を生じ、国家をめぐる「力関係」論

となり：闘争……一つ（の組合せ）だけが：打ちかち・経済・政治的目標の單一性を生じ、国家をめぐる「力関係」論

となり：闘争……一つ（の組合せ）だけが：打ちかち・経済・政治的目標の單一性を生じ、国家をめぐる「力関係」論

となり：闘争……一つ（の組合せ）だけが：打ちかち・経済・政治的目標の單一性を生じ、国家をめぐる「力関係」論

A・グラムシの諸理論と

ネオ・マルクス主義

アントニオ・グラムシは、戦間期にイタリア社会党左派から転身して共産党を創設した指導者の一人であり、反ファシズム闘争の高揚下に亡命先から国会議員として帰国、一九二六年に投獄されながら十年余にわたって獄中闘争を貢献し、三七年に獄死を余儀なくされた革命家である。本稿は、「獄中からの手紙」や「獄中ノート」に記されているグラムシの思想と政治傾向の全般的な分析が目的ではなく、ネオマルクス主義がその國家理論において引用するグラムシの諸概念を梗概し、その特長と理解や評価は時代と引用者によって多様である。だが、彼の理論に依拠する人々は、

「社会主義へのイタリアの道」（五六年）を表わしたトリアッティにせよ、国家の政策を全体としては階級間妥協の産物として捉えるブーランツィアスにせよ、ブルジョア独裁国家権力の粉碎とプロレタリアートの革命的独裁に対する傾向は同じである。

ヘゲモニー論の出自由と特長

グラムシの「先进国革命」に関する基本的見解は、獄中・獄外を貫いている。彼は、二六年八月の中央委員会への報告で、

「先进資本主義においては、支配階級は、たとえばロシアではもっていない政治的および組織的な準備を保持している。こ

れは、非常に重大な経済恐慌（危機）も政治分野にすぐには影響を及ぼさないことを意味す

る。政治は経済に対していつでも立ち遅れているが、非常に立

ち遅れている。国家装置は考え

うる以上にずっと抵抗力をもち

る。この主張は、獄中において危機の瞬間に危機の深さから想像しうる以上に、体制に忠実

な諸勢力を組織することができ

る」（選集I）と述べている。

この主張は、獄中において危機の瞬間に危機の深さから想像しうる以上に、体制に忠実

な諸勢力を組織することができ